



白山公園の蓮（撮影：眞谷）

『お盆に寄せて』

往生院 青木一男

お盆は一部地域で七月に行われませんが、多くは月遅れの八月十三日から十六日に行われる国民的な行事です。

お盆には、家族でご先祖様のお墓参りをするという習わしが、延々と続いており、家族で自分の家の菩提寺へ行き、まずご本尊にご挨拶、そしてご先祖のお墓に花と線香を上げて手を合わせ、さらにお世話になった人たちの家のお墓にもお参りします。ここでは、祖父母と子供、孫の間には温かい心の交流があります。

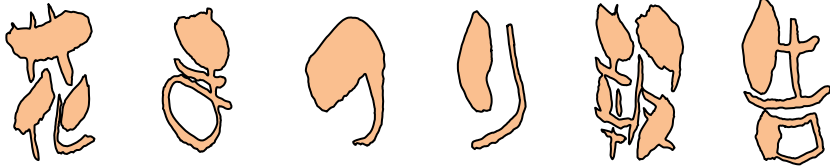
しかし、平成十八年ころから全国的に少年の親殺しや肉親殺し事件が多発しています。少子高齢化や核家族化が進んだ影響でしょうか。「お盆休み」には遠く離れていても、子供や孫が祖父母のいる実家に帰ってきて、一家そろって「お盆休み」を過ごすという昔からの日本の良き伝統が続いており、祖父母、子供、孫の

間の温かい心の交流があれば、このような事件は起きないのではないのでしょうか。

お盆の期間中には菩提寺のご住職にお出でいただき、ご先祖の回向のお経を上げていただきますが、このとき御仏壇はきれいに掃除し、ローソク、お花、線香、供物を上げ、読経の時は、家族そろって御仏壇の前に座り、一緒に合掌・礼拝するようにしたいものです。テレビなどは消して、静かに落ち着いた雰囲気にすることも大切なことです。お盆には、ご先祖様の霊をまつるだけではなく、生きている祖父母、父母に感謝し供養する生御魂の行事も含まれています。ご先祖様を敬い、祖父母や父母に感謝する温かい心があれば、親殺しや肉親殺しなど起こることはないはず。

お盆の行事もだんだん少なくなり、お盆との関連も忘れ去られていくようですが、私たちはお盆のその温かい心をいつまでも大切に伝えていきたいものです。

合掌



- <式典> 日時：平成21年4月8日(水)午後1時より2時
会場：宝亀院(新潟市中央区西堀通九番町1612)
- <おねり> 古町通を大和デパート前まで
- <灌仏> 日時：平成21年4月8日(水)午前10時よりおねり到着まで
会場：古町アーケード(大和デパート前)
- <講演会> 日時：平成21年4月8日(水)午後3時より
会場：ホテルイタリア軒5階
講師：土田慶也師(浄土宗 如来寺住職)

式典は、真言宗智山派 宝亀院住職 小島不二師(新潟仏教会会長)を導師に、浄土宗 往生院住職 青木一男師(副会長)、曹洞宗 瑞光寺住職 桑原大宗師(前会長)など、多くの宗派から多数の僧侶が参加して、盛大につとめられました。ご協力くださった皆様、本当にありがとうございました。

僧侶による読経中に、市内の保育園・幼稚園の園児さんが灌仏をしてくれました。

今年には五つの園から約一四〇名の園児さんが参加し、先生方の指



導のもとしっかりとお参りしてくれて、頼もしく感じたことでした。

また、今年は好天に恵まれたこともあってか、園児さんの両親や祖父母と思われる方が多数、会場に参拝してくださいました。

この花まつりが、新潟市民の皆様が今後仏法に触れてくださる縁となってもらえたならば、これほどうれしいことはありません。

来年以降も、より多くの皆様においでいただけることを願っています。

式典は、園児さん達の「子供の花まつり」の大合唱で終了しました。



式典終了後は、古町通を大和デパート前まで「おねり」です。今年の水曜日で、古町商店街は定休日のお店が多くちよつと寂しいところもありました。それでも、園児さんやその保護者、そして先生方に僧侶と、大勢で音楽を流しながらの賑やかな「おねり」となりました。大和デパート前では、ここま

で引いてきた白ゾウに登って、園児さんに灌仏をしてもらいました。一方同じ大和デパート前では、午前十時頃から通りかかった方に灌仏をしていただきました。 「ワー、懐かしい！」と寄ってきてくださる方や、「へー、今日ってお釈迦様の誕生日なんだ！」と物珍しそうに眺めていかれる方など、反応は様々でした。会場では、釈迦誕生仏に甘茶をかけていただいた後、その甘茶を飲んでいただきました。甘茶とは、アマチャ（ユキノシタ科）の若葉を乾燥させ、それを煎じた飲み物で、漢方薬としても用いられています。自然な甘さで口当たりも良いもので、抗アレルギー作用などの薬効もあるそうです。今年機会がなかった方は、来年には是非お出でになって、甘茶をお飲みいただきたいと思

合掌

《編集後記》

今号では「花まつり講演会」での講演要旨を、講演会が終了して一ヶ月も経過した後に、講師に依頼して寄稿いただきました。本当に講師には多大な迷惑をおかけしてしまいました。

これまでは、講演会に参加できなかった方には、どの様なお話があったのかを知る機会が全くありませんでした。

花まつり行事の後片付けのため講演会に参加できず、残念がっていた役員の方望から今号の企画が生まれたのですが、なぜ今までそのことに考えが及ばなかったのかと、悔やまれます。

来年からは事前に講師に寄稿依頼をし、ご迷惑をかけることなく、この企画を継続していくつもりです。

(眞谷)

【花まつり講演会】

午後3時から、イタリア軒5階を会場に、花まつり講演会を開催しました。

講師は、浄土宗如来寺 住職の土田慶也師です。

土田師は、新潟県教誨師会副会長など多くの役職を歴任されておられますので、その経験に基づいたお話や、『無財の七施』についてなどのお話を、ユーモアを交えてお話しくださいました。

「病院の帰りなのですが、あんまり笑って病気が飛んでいったようです。」という感想をお聞きできたことは、本当にうれしいことでした。

来年も、一層のご参加をお待ちしています。

合掌

演題 「楽しい人生の送り方」

今日は花まつりにようこそご参加ください、ご苦勞様でした。

最近世の中がすっかり乱れ、親が子を殺す、子が親を殺す、果ては何の関係もない人まで無差別に殺される大変な事件が続いています。こうした世の中をどうしたら良くなるのでしょうか。

こんな世の中でも毎日楽しく暮らす方法がございます。『無財の七施』と申しまして、お金をかけなくとも自分の心掛け次第で、人様のために役立つ方法があるんです。そして自分も楽しい日暮らしができるんです。

その第一は『捨身施』と申します。これは自分で出来る労力を提供して無償で奉仕活動することです。たとえば道を歩いていたら道路に小さな水たまりがあり、雨が



降ると通行人が迷惑している。気がついたらすぐ穴を埋めてやるぐらいの気持ちをもって欲しいということ。二つ目は『心慮施』といい、喜びや悲しみを分かち合う細やかな心遣いをしなさいということ。隣に不幸があったり、お祝い事があつたら、心からお悔やみやお祝いの言葉を掛ける気遣いの出来るようにしたいものです。三つ目は『和顔施』、これはどなたにも常に和やかな笑顔で接すること。また四つ目は『慈眼施』、これは常に慈しみの優しい眼でどなたにでも優しく接して欲しいこと。五番目は『愛語施』といい、どなたにも優しく誠意ある言葉をかけてやることです。六番目が『房捨施』、これはお互いに困ったときは助け合うよう心掛けることで、例えば雨が降ってきたら、雨宿りに軒先などを快く提供するような心掛けることです。七つ目は『床座施』といい、相手に気持ちよく座席や地位を譲るということ。例えばバスや電車で、お年寄りにすぐ席を譲ること、またいつまでも役職に居座らず若い人に譲ることを考えることです。

こんな心がけて毎日暮らしておれば、きっと楽しい人生を送ることが出来ますので、どうぞ心掛けてください。